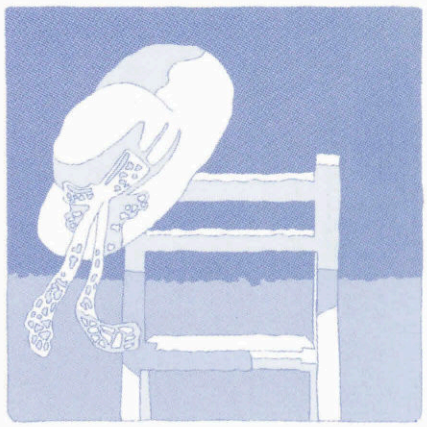

探訪　長門のいしぶみ ㉓

先人の苦難がしのばれる
餓死供養塔

仙崎小学校運動場の南西端に接する空地に、この供養塔がひっそりと立っている。「享保の飢饉」（1732―33年）の犠牲者を弔うためのものと思われ、風化が進む塔の表面から、つぎのような字句を読み取ることができる（□は判読不明文字）。

梵字　享保廿卯　□屋利兵衛
梵字　法界万霊餓死供養塔　永田屋吉兵衛
梵字　四月八日　安田屋□□門
永安屋□□衛

西日本での近世最大の飢饉は、「享保の飢饉」といわれる。この飢饉は享保17年（1732）の、ウンカの異常発生による大凶作が原因で起きた。幕府も救済に乗り出したが、中国・四国・九州一帯は深刻な飢餓状態に陥り、数万人（20―30万人とも）の餓死・疫死者を出したという。また264万人を超える飢民が発生し、各藩は御救米や粥の支給など、その対策に追われた。

防長二州でも、およそ8割の減収という未曾有の大凶荒となり、多くの餓死者がでた。飢民は17万7千余人と報ぜられ、少なからぬ流民も発生した。

耕地や家を捨て、食を求めてさまよった流民が当地にも入ってきたが、力つきてガラガラ浜付近で多数落命したと伝えられる。流民は無一文ではなかったが買う食糧がなく、つないだ穴あき銭を首にかけて飢え死にしていたという。

ちなみに、この供養塔は「千人塚」とも呼ばれ、昭和の初めごろまで後原の土手の上にあったといわれる。

（正）

位置図

（寄稿・長門市郷土文化研究会）

火災時の問い合わせは
☎22―1414
長門地区消防本部・中央消防署
☎22―0119

地震から身を守るために

最近、鳥取県西部地震、芸予地震がありましたが、あなたの家の震災対策は万全ですか？

地震が発生した場合、まず身の安全を、火の始末、戸を開けて出口の確保、火が出たらすぐ消火、外へ逃げるときはあわてない等の地震時の心得をしっかりと身につけましょう。

《平成13年度全国統一防火標語》

「たしかめて　火を消してから次のこと」